

# ポスト真実時代における認識的認知に基づく 情報リテラシーとその学習環境のデザイン

望月 俊男\*, クラーク A. チン\*\*, 山口 悦司\*\*\*, 大浦 弘樹\*\*\*\*

## Information Literacy Based on Epistemic Cognition and Its Learning Environments Design in Post-Truth Era

Toshio MOCHIZUKI\*, Clark A. CHINN\*\*, Etsuji YAMAGUCHI\*\*\*, Hiroki OURA\*\*\*\*

In today's "post-truth" era, lay citizens have difficulty trusting and judging what is true based on their integrated comprehension of various information. The amount, diversity, and complexity of information has increased dramatically causing rampant conflicting information originating even from reliable sources in topics such as vaccines, diets, educational methods, and so on. This paper reviews research in epistemic cognition that explores new ways of information literacy in order to improve the abovementioned situation. Based on the AIR model for epistemic cognition, which places particular emphasis on evidential practices, we explain the Grasp of Evidence framework which captures competencies that include evaluation, interpretation, and integration of evidence, as well as evaluation of testimonies of experts who provide such information. Our three projects that explore innovative forms of information literacy education based on the framework are also described in this paper.

キーワード：認識的認知，情報リテラシー，複数文章読解，AIRモデル，Grasp of Evidence フレームワーク

### 1. はじめに

あなたがダイエットを始めたくなくて、その効果的な方法を知りたい場面を考えてみよう。皆さんはどのようにしてダイエットの効果的な方法について知ろうとするだろうか。例えば、「ダイエット 方法 効果的」とWebの検索エンジンに入力するかもしれない。そうすると、9,000万件以上のWebページがヒットする。その情報にいくつかアクセスすれば、痩せるための方法が何十と採り上げられている解説サイトがあったり、特定の方法を推薦するサイトがあったりする。あなたはどのようにしたら、効果的な方法を適切に知ることができるだろうか。

当然ながら、このような問題が生じる事例はダイ

エットに関する情報に限らない。相反するさまざまな情報が入り乱れているなかで、人々はどのようにしたら適切な情報にアクセスし、入手した相反する複数の情報を適切に統合して理解し、意思決定を行えるのだろうか。

さらに問題となるのは、「ポスト真実」時代といわれる現代にあつては、例えば専門家やジャーナリズムのような情報発信機関の質や倫理が低下し<sup>(1)</sup>、何が真実なのかを判断し、信頼することが容易ではない状況が生じていることである。このような状況では、情報源に対する市民の信頼が低下し、個人々の意見が数多くの証拠や科学的知見よりも重視され、確立された知見に対してもさまざまな矛盾する意見が横行したりする<sup>(2)~(6)</sup>。情報の量、多様性、複雑性は劇的に増

\* 専修大学ネットワーク情報学部 (School of Network and Information, Senshu University)

\*\* ラトガース大学大学院教育学研究科 (Graduate School of Education, Rutgers University)

\*\*\* 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 (Graduate School of Human Development and Environment, Kobe University)

\*\*\*\* 東京理科大学大学院理学研究科 (Graduate School of Science, Tokyo University of Science)